

トマス・ホッブズ著作文庫について

新大学図書館のグランドオープンに際し、本学では関西学院特別図書購入基金によって、「トマス・ホッブズ著作文庫」(138点、158冊)、「イギリス社会政策コレクション」(320点、500冊)、「イギリス社会科学古典資料コレクション」(320点、500冊)の3つのコレクションを購入した。これらはすでに所蔵する「ジョン・ロック著作文庫」、「アダム・スミス著作文庫」、「ミル父子著作文庫」、「スコットランド啓蒙思想コレクション」など他の特別文庫と結合し、17~19世紀のイギリスを中心とした社会科学古典資料を集めたものとして、国内の大学図書館の中でも数少ない貴重なコレクションを構成している。これらのコレクションは「特別文庫」に指定され収蔵されるとともに、広く内外の研究者に開かれ、国際的な視点に立つ研究・教育の促進に利用されることが期待されている。

この内1998年はホッブズをテーマに、11月5日に学術資料講演会「ホッブズのアポリアとgenerosity」を開催するとともに、10月から7週間にわたり「トマス・ホッブズ著作文庫」から数点を選び館内での展示を行った。

Thomas Hobbes (1588-1679) は、周知のように、最も刺激的な思想家の一人である。

このコレクションは、彼の著作、当時の反応、及び後の研究書を幅広く含んでいる。以下、特記されるべき点を挙げたい。

第1に、彼自身の著作の多くの初版本を含め、17世紀の諸版が広範に収集されている。ホッブズ研究において基準となっているHugh MacDonal and Hargreavesによるピブリオでは、1725年までの諸版が網羅的に記されているが、それらの約100ほどの版の内、43がこのコレクションにある。

第2に、彼の主著『リヴァイアサン』について、初版(1651)のみならず17世紀に出された7つの版が網羅されている。これらの中には、先のMacDonal and Hargreavesのピブリオにすら含まれていない版もある。

また、第3に、稀覯書といえる『哲学要綱第三部、市民について』(1642、ラテン語版)の初版本がある。本書はパリで著者名もイニシャルだけ付して、ごく少数出版された。アメリカでは、National Union Catalogによれば2冊のみが知られている。イギリスでも、大英博物館やケンブリッジのキングスカレッジのケインズコレクション、ボードリアン、ロンドンのウィリアムズライブ



トマス・ホッブズの肖像
(Opera Philosophica, 1966から)

リなどの限られた所蔵が確認されているのみである。本書については、また、これに続く17世紀に出版された第2版以下の諸版や最初のフランス語版、英語版も収集されている。

これらの著書が非常に稀少しか存在しないのは、ピューリタン革命と王政復古の激動の時代にあって、ホッブズ自身がその出版による政治的迫害を恐れていたこと、またこれらの著書が1654年にはローマ法王庁の焚書目録に加えられ持っていること自体が危険な図書であったことなどによる。初めは手稿が回覧されたり稀少な部数が出版されたりするに過ぎなくとも、パリやアムステルダムで、また著者の許可を得ずに秘密に出版されたりしながら、その名声は次第に広まっていくことになる。

第4に、出版当時の反応を示す著作が35点収集されている。これらの中には、リヴァイアサンに特化した最初の攻撃であるRosseの1653年の著書を始め、Filmer, 1696やLawson, 1657、さらに重要なClarendon, 1676などの批判もある。これらの著書は、著名なホッブズ自身の著作よりも一層保存されることの少なかったものである。

第5に、19世紀以後の代表的研究書が集められているのも、個々の著作が稀覯書というわけではないにしても研究者にとっては有り難いものである。

本コレクションが、世界的な水準にあるわが国のホッブズ研究の今後の一層の発展に寄与することは間違いないところである。

(関西学院大学法学部教授 岡本 仁宏)